

### ○第1話 神様の三つの玉

丁寧語と常態語の使い方に不統一がみられますが、聞き取りの勉強になります。

- ・ひんすーすがいぬ御年寄ぬ、ゆったいゑったいくちさぎさ歩っち。  
「ゆったいゑったい」はたらいや桶の中の水がチャプチャプと音を出して揺れる状態を指します。よって、ここでは「ぶらぶら」です。
- ・ちけーねーらに？

共通語で「大丈夫ですか？」という意味ならば、「ちゃん無一びらに？」。

- ・色んな物語華一ち

共通語で「色んな物語をにぎわって」となるので、変です。おそらく、「話すん」の過去形

「話し」の誤読かもしれません。にぎやかにしてもらったと言いたいのなら、「華一ち呉みそ一ち」＝「にぎやかにくださって」とすべきです。

- ・夕ぬ暮りて、来やーびたん。

沖縄語ではこうは言いません。共通語を逐語訳した結果でしょう。夕暮れてしまったのなら、

「夕ゆっく、て。」が正しい。

- ・なー、ターん暮りて、困とーいびーん。

上記と同じです。また、「くまいん」は「籠っている」意が普通です。「困る」の用法もあるようですが、普通は「困る」は「すえーすん」です。「すえーちょーいびーん」とすべきでしょう。

- ・んじゃさ。あぬうすめーからいーたる玉。

「なるほど！」なら「んちゃ！」がよさそうです。

- ・東ぬ空ぬ明かがて、てーだ加那志ぬ登ぶて来やーびたん。

文語では「空」を使いますが、口語のナレーションなので「天」を使うべきです。

- ・だてーぬっ子ぬ達んかい囲まーって。

「だてーん」は共通語で「大きく、大いに、うんと」です。たくさんの子に囲まれたのですから、「うほーくぬっ子ぬ達」＝「多くの子達」がよいです。

### ○第2話 百合若武士

日本各地に伝わる百合若伝説の沖縄版でしょうか。朗読者の発音にハッキリしないところがあり、リスニングに苦労しました。全体を通して、文体が分かりにくく、子供たちはこのアニメで沖縄語が理解できるのだろうか、心配です。そう思うのは、私だけかもしれませんが。それに、悪い部下が妻や家屋敷を盗る話が子供向けのアニメ題材としては適当ではないような気がします。

- ・何時かー、どーぬ妻んかいさ、んで言ち、企どーいびーん。

「企らんでいました」のなら、沖縄語の「企むん」から、「企どーいびーん」とすべきです。

- ・船ぬしちだんで言ち、ゆくし言ちゃん。

「しちだん」は「沈んだ」ことなのでしょう。「沈むん」の過去形「沈だん」が正しいです。

- ・なちかさる鷹の鳴ち声、なちかさるどーぬ家ーんかい戻て。

沖縄語の「なちかさん」は共通語の「嘆かわしい」という形容詞で、「懐かしい」は「あながちさん」です。「あながちさる鷹」のように言わなければなりません。「なちかさん」の誤用はよく見かけますが、正しい沖縄語を使いたいものです。

### ○第3話 浜千鳥

沖縄のどこの言葉か不明でしたが、ナレーション、声優ともはっきりしていて、リスニングしやすかったです。那覇か田舎の言葉でしょうか。首里では「女」は「ゐなぐ」、「男」は「ゐきが」ですが、ここでは、それぞれ「いなぐ」、「いきが」と発音しています。

- ・見ちょーかわるやる

「見てやろう」ということですが、「見ちょーきわどやる」のほうが良い気がします。

### ○第4話 ニブタリヤ天の神

初学者の私には、まだ疑問助詞「い」、「と」と「ち」が正しく聞き取れませんでした。

・ 働<sup>はたら</sup>ちゅんつんさん

おそらくナレーターの読み間違いか、音読をカンダようです。「働<sup>はたら</sup>ちゅんでんさん」です。

・ あーがい、ずび（または、るび）

感嘆詞か他の言葉かは不明でした。わかる方がおられたら、教えてください。

・ 日首里言葉では「ふー」ですが、田舎言葉は「ひー」です。あいまいに使っているので、どちらとも聞き取れませんでした。

### ○第5話 ネズミの失恋

女性のうちな一ぐちは不慣れなところがあります。例えば、男のことは「ゐきが」あるいは「いきが」ですが、「いきが」と語頭が「?i」の発音になっています。

・ 清<sup>ちゆ</sup>らさる<sup>いなぐ</sup>女<sup>し</sup>ぬえんちゆぬ住<sup>し</sup>どーいびーたん。

「暮<sup>く</sup>らちよーいびーたん」が適切です。

・ 深<sup>ふか</sup>さる<sup>うみ</sup>海<sup>た</sup>ぬ二人<sup>い</sup>ひだて、とーいびーん。

「隔<sup>か</sup>だて、とーいびーん」です。「ひ」と「ふ」は那覇言葉と田舎言葉の違いでしょうか。

・ えんちゆよ、ちゃーさが?うたきるるい?発音がはっきりせずわかりにくいです。「をたてどをるい」です。

・ ブラ<sup>く</sup>や小<sup>いゆ</sup>さる<sup>かいそう</sup>魚<sup>いなぐ</sup>、んな一<sup>とど</sup>ら一、海藻、女<sup>し</sup>えんちゆんかい届<sup>とど</sup>きやびたん。

辞書にありませんでしたが、琉歌をやっているひとから、貝（小さい）のことに教えてもらいました。

・ 鼻<sup>はな</sup>ふらちゆん

得意げに鼻をうごめかす。

・ 鼻<sup>はな</sup>ぬ上<sup>あ</sup>から這<sup>ほ</sup>ーゆん

助長する、つけあがる。

### ○第6話 まじないナーマーヤドゥー

後世に伝え残してゆくべき「うちな一ぐち」は何なのか、考えさせられました。言葉は「これが絶対正しい」と言い切れない、難しい問題があります。まして、豊かな方言の沖縄語ではいつもこれが問題になります。私は那覇・首里言葉です。

・ 三<sup>み</sup>回<sup>け</sup> ナーマーヤドゥんで言<sup>い</sup>ち、名<sup>な</sup>言<sup>い</sup>ちきみそーり。

正しい那覇発音は「呉<sup>い</sup>みそーり」です。

・ 白<sup>うーす</sup>

うちな一ぐちではありません。正しくは「白<sup>うーし</sup>」です。